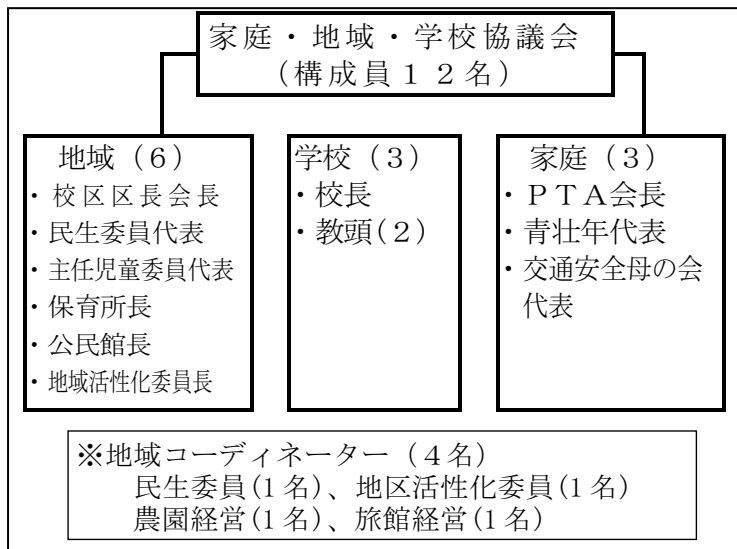


令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

高浜町立内浦小中学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- ①開催回数(年間)
 - ・ 定期会… 3回、臨時会… 随時
- ②定期会開催日程
 - ・ 第1回 7月18日(木)
 - ・ 第2回 12月19日(木)
 - ・ 第3回 3月10日(火)
- ③協議内容
 - ・ 学校評価に関すること
 - ・ 地域と進める体験推進事業に関わること
 - ・ 児童生徒の安全や居場所づくりに関すること
 - ・ 家庭の教育に関すること
 - ・ 地域での児童生徒の様子について

(3) 協議会における成果と課題

- ①地域の方に、スクールプランを提示することで、どんな児童生徒を育てようとしているかを具体的な姿として知ってもらうことができた。
- ②学校評価を学期ごとに提示し、学校として力を入れて取り組むことを伝えることで、保護者や地域の協力が得やすくなった。
- ③地域の方々からの目を見た学校行事での児童生徒の様子を伝えていただけなので、各行事の反省をすることができた。
- ④学校からの情報提供を行うために、学年や学校だよりの発行や、学校ホームページや学校ブログの積極的な更新を図ることが大切である。



2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- ふるさとの人・もの・ことにふれ、ふるさとのよさを発見し、心豊かでふるさと大好きといえる児童生徒を育てる。
- 児童生徒の問題解決能力やコミュニケーション能力の育成を図る。
- 学校・家庭・地域が協働し、児童生徒の健全育成や安全体制を推進する。

(2) 活動の実際

①地域イベント「来てミナーレ内浦」への参画(小学5年～中学3年)

毎年、夏に行われる地域イベント「来てミナーレ内浦」に、今年も企画段階から参画した。

小学生は、1学期に調べた内浦地区の歴史や集落ごとの文化財などを町内外から訪れた方々に発信する「内浦地区案内」を行うこととした。内浦湾を漁船に乗って巡る「内浦湾クルーズ」に案内役として乗船し、海から内浦地域の魅



力を伝えた。

中学生は、地元の海岸の砂を使った「砂アートではがきを作ろう」のブースを運営した。生徒たちは、砂に色を着けるための方法や試作品の制作など、様々な試行錯誤を行いながら当日を迎えた。当日は、予定の参加人数を越えるほどの大盛況となった。



児童生徒は、地元の方々からのお褒めの言葉や参加してくださった方々からお礼の言葉をかけてもらい、充実感や達成感を持ったようであった。地域の活性化に貢献するとともに地域のよさを知る取組ともなった。

②地域の課題とその解決に向けた活動（中学1年～3年）

1年生は、10月から運行が始まった「内浦ぐるりんバス」の実態調査と利用者拡大のための取組を行った。「内浦ぐるりんバス」は、公共交通サービスが行き届いていない内浦地区で、通院や買い物をしやすくするための地域と行政が一体となった取組である。生徒たちは、実際に何度かバスに乗車して利用者数を調べたり、利用者や運営に携わっている方々へのインタビューを通したりして、実態や課題を探りながら多くの人に利用してもらえるような活動を行った。

2・3年生は、昨年度に引き続き、内浦地区の農産物を使用した食品づくりを行った。さつまいもやいちご、ぶどうなどを農家から仕入れ、試行錯誤を繰り返しながら食品の開発を目指した。地元の民宿を訪れて、食品開発のヒントや気をつけていること、苦労などをお聞きした。そうした活動の中で、今年度は、さつまいもを使った「いもようかん」「さつまいもクッキー」などを考案し、11月の学習発表会で保護者や地元の方々に試食していただいた。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・5月に児童生徒と「懇談会」を開催し、本年度の活動のねらいや方向について報告し、アドバイスをいただいた。
- ・「来てミナーレ内浦」では、地域との橋渡し役をお願いし、児童生徒がイベントの企画・運営をスムーズに行えるようにしていただいた。運営委員会等で、児童生徒の希望を伝えてもらったアイデア等を出してもらったりした。
- ・地域の食材を使った取組では、気をつける点などをアドバイスしていただいた。
- ・年度末には、教員と懇談会を開催し、次年度に向けてのアドバイスをいただいた。

(4) 特に工夫した事項

- ・「来てミナーレ内浦」では、児童生徒が主体となった取組となるよう、企画段階から運営に参画するようにした。
- ・学習したことを地域内外へ発信することを念頭において活動することとした。

(5) 成果と課題

- ・「来てミナーレ内浦」に企画段階から参画することで、児童生徒が主体的に活動する様子が見られた。少しでもよいイベントにし、多くの人に内浦地区のことを知ってもらおうと試行錯誤する中で成長していく姿が見られた。
- ・内浦地区のことを調べたり地域の特産品について知ったりする活動を通して、ふるさとのよさや地域の人々の思いを感じることができ、ふるさとへの愛着を深めることができた。
- ・「内浦ぐるりんバス」の取組のように、地域の方々の生の声が聞けるような取組を今後はもっと増やしていく必要がある。